

**製品名: IDE(3H4)マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM12351**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間、ハムスター
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	118kDa

**抗原情報**

遺伝子名	IDE
別名	IDE; Insulin-degrading enzyme; Abeta-degrading protease; Insulin protease; Insulinase; Insulysin
遺伝子 ID	3416.0
SwissProt ID	P14735
免疫原	IDE の合成ペプチド

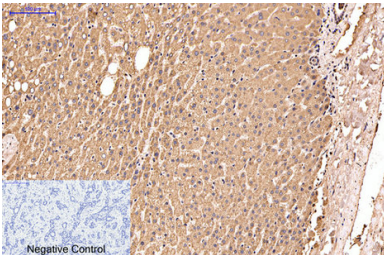
**背景**

この遺伝子は、細胞内インスリンを分解してインスリンの活性を終結させる亜鉛メタロペプチダーゼをコードしています。この酵素はグルカゴン、アミリン、ブラジキニン、カリジジンといった多様なペプチドを分解することで、細胞間ペプチドシグナル伝達にも関与しています。この酵素はインスリンに対して親和性が高いため、インスリンを介したβアミロイドなどの他のペプチドの分解阻害が起こります。このタンパク質の機能不全はアルツハイマー病や2型糖尿病と関連していますが、この遺伝子の変異がこれらの疾患の原因となることは示されていません。このタンパク質は主に細胞質に局在しますが、一部の細胞種では細胞外空間、細胞膜、ペルオキシソーム、ミトコンドリアにも局在します。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。追加の転写バリエーションは、以下の触媒活性で報告されています：インスリン、グルカゴン、その他のポリペプチドの分解。タンパク質には作用しない。補因子：サブユニットあたり1個の亜鉛イオンに結合する。機能：インスリンの細胞内プロセッシングに関与する可能性がある。細胞間ペプチドシグナル伝達に関与する可能性がある。PTM：N末端がブロックされている。類似性：ペプチダーゼ M16 ファミリーに属する。サブユニット：ホモ二量体。

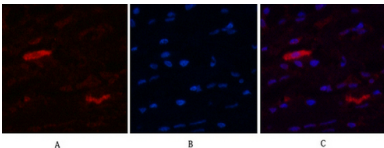
## 研究分野

アルツハイマー病

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. IDEモノクローナル抗体(3H4)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム(pH 6.0)を用いて抗体賦活化(>98°C、20分)を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈(室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



ヒト乳房組織の免疫蛍光染色。1. IDEモノクローナル抗体(3H4)(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2. Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3. 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。

1) Hela、2) HepG2 (1:2000 希釈) のウェスタンブロット分析

